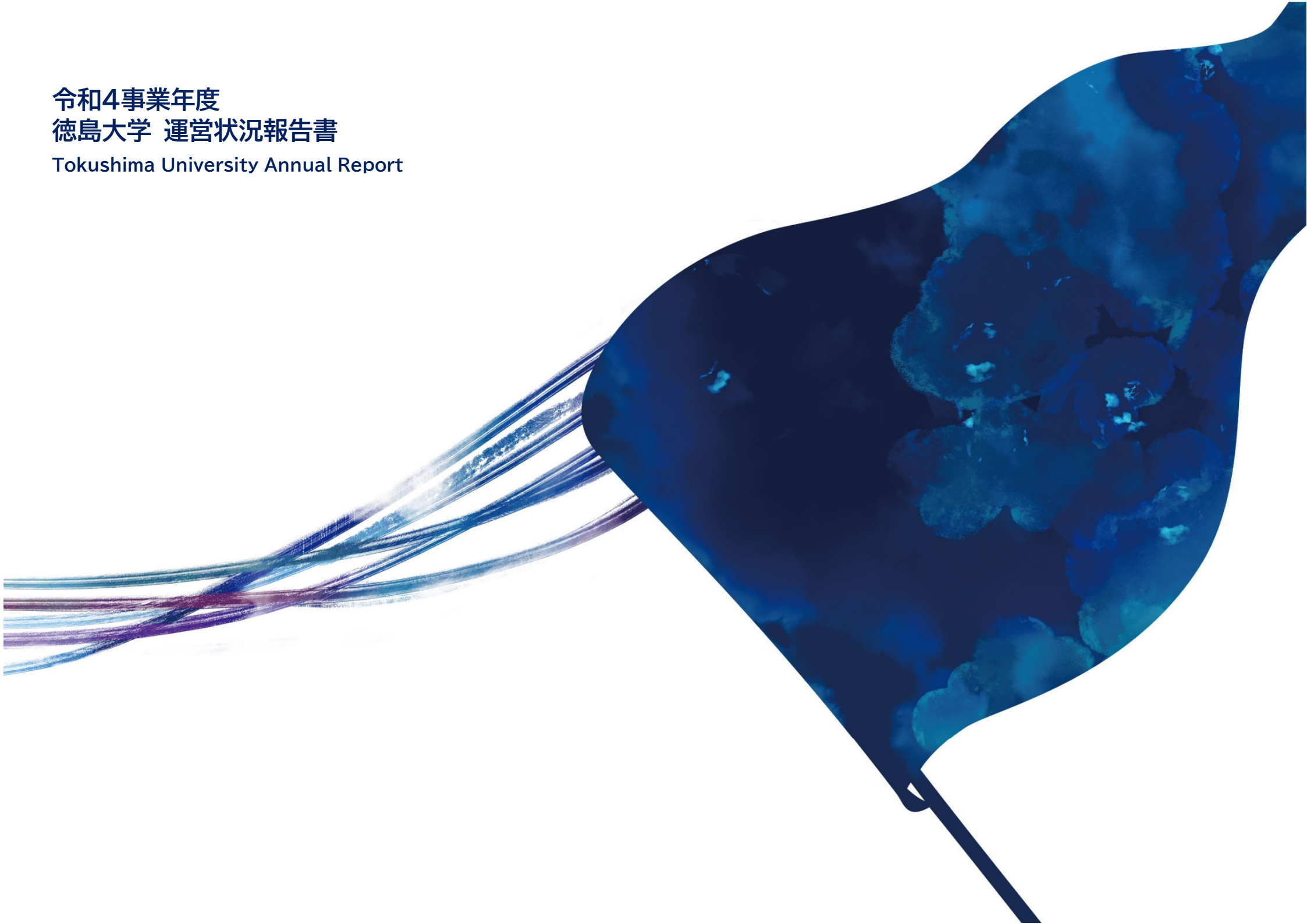


令和4事業年度
徳島大学 運営状況報告書
Tokushima University Annual Report



はじめに

令和4年度から第4期中期目標期間(令和4年度～令和9年度)が始まりました。

第4期中期目標期間においては、年度計画及び文部科学省(国立大学法人評価委員会)による年度評価が廃止されましたが、これは国立大学法人が国との自律的契約関係の下でPDCAサイクルを回していける組織であるとの前提に立った措置であり、各大学が実施する自己点検・評価については、外部性の確保や客観的なデータの活用など一層の充実・強化が求められています。

徳島大学では、国立大学法人法や学校教育法に基づく法定評価との連動性・親和性を高めるなど、より効率的・効果的に運用できる制度となるよう自己点検・評価制度の再構築を行い、その一環として、毎年度の自己点検・評価の結果はもとより、教育研究等の活動における特色ある取組や優れた実績、財務状況等を含むした大学情報を「運営状況報告書」として取りまとめ、学内外へ発信することとしております。

この「運営状況報告書」は、ディスクロージャーの観点から学内外のステークホルダーに本学の経営内容についてお知らせする、アニュアルレポート(Annual Report)の役割も果たすものと考えており、本学の教員研究等の諸活動等に対するご理解と一層のご支援を賜えますと幸甚に存じます。

徳島大学長
河村 保彦



【INDIGO 宣言】

未来社会を照らす誠実で高潔な人格、地球規模の課題に立ち向かう斬新な発想と力強さ、この両者を身につけるための教育研究の場を提供し、社会の要請に応え続けます。

そして再び、ノーベル賞受賞者を輩出したいと願います。性別、年齢、国籍、価値観などの多様性を前提に、誰も取り残すことなく受け入れて、学生や教職員の地力を最大限引き出せる大学運営を行います。

「地球視点で考え、徳島発で行動する」大学として世界との交流を進め、教育研究に関する成果や課題を学内外と共有することで知の融合反応を促進し、「深く輝く、未来を紡ぐ大学」を目指します。

【徳島大学のあるべき姿を象徴するキーワード】

Integrity(誠実さ)
Noble and Novel(高潔さと斬新さ)
Dynamism and Diversity(活力と多様性)
Inclusive(寛容)
Global(世界へ発信)
Open(開かれた徳島大学)

徳島大学VISION 5つの骨子



中期目標

【16】外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、理念や目標・計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。

中期計画

【16-1】評価結果を活用したエビデンスベースの法人経営の実現客観的な**評価指標をベースとした自己点検・評価制度を構築**するとともに、**外部有識者による新たな評価を実施**するなど、自己点検・評価の客観性と外部性を強化する。さらに、**評価結果を可視化し、法人経営に活用する仕組みを構築**する。
また、自己点検・評価の結果のみならず、教育研究活動、財務状況等の大学情報を集約し、多様なステークホルダーを意識した情報発信を行うことで、社会からの理解を深める。

法人評価 (R8, R10)

文部科学省
国立大学法人評価委員会

新 アドバイザリー・ボード (6年以内に少なくとも1度)

外部有識者
(経営協議会学外委員等)

大学機関別認証評価 (令和8年度までに受審)

大学改革支援・学位授与機構

新 運営状況報告書

評価結果を含む教育研究等活動における特色ある取組や優れた実績、財務状況等を包括した大学情報を発信

中期目標・中期計画評価 (2年に1度)

各戦略室、病院、事務局各部

◆中期目標・中期計画の達成状況の評価

- ✓ 中期計画ごとに策定する実施計画の実施状況と、評価指標の実績を踏まえ総合的に評価

※実施計画の実施状況と評価指標の実績の集積と確認は毎年度実施

- ✓ 評価結果は、中期目標・中期計画の達成に向けた取組の促進に活用

組織別評価 (毎年度)

教育・研究組織、共同教育研究施設等

◆教育研究等の水準の向上状況の評価

- ✓ 各部局ごとに策定する活動計画の実施状況と、評価項目(指標)の実績を踏まえ総合的に評価

※教育研究組織の活動状況を適切に点検・評価するため定性的な評価を再導入
※評価指標の達成水準は第3期実績以上

- ✓ 評価結果は各部局の機能向上・改善に活用

内部質保証 (認証評価受審前年度)

全学(教育組織)

◆教育研究等の水準を評価

- ✓ 認証評価基準への適合状況を点検・評価するため認証評価受審前年度にプレ評価を実施

※全学委員会等の内部質保証に関する自己点検・評価は毎年度実施
※教育組織の基準には組織別評価を活用

- ✓ 評価結果は全学的な教育研究等の水準の向上・改善に活用

目次

○ 大学の概要	
現況	1
大学の基本的な目標等	1
大学の機構図	2
○ 【教育】進取の気風の醸成と未来を切り拓く人材育成	4
◆教育データ	
○ 【研究】イノベーションを創出するプラットフォームの構築	6
◆研究データ	
○ 【社会との共創】地域の中核となり、世界の課題を解決する社会連携の推進	8
◆徳島大学の SDGs	
○ 【医療】高度、先進、全人的医療の提供と人間愛に溢れた医療人材育成	10
◆徳島大学病院データ	
○ 【組織運営】魅力と活力ある経営体としての大学へ	11
◆財務レポート	
○ 関連リンク	13



■ 現況

①大学名 国立大学法人徳島大学

②所在地

本部 : 徳島県徳島市新蔵町

常三島キャンパス: 徳島市南常三島町

蔵本キャンパス : 徳島市蔵本町、庄町

石井キャンパス : 名西郡石井町

③役員の状況

学長名 河村 保彦(令和4年4月～令和9年3月)

理事数 6名(うち非常勤1名)

監事数 2名(うち非常勤1名)

④学部等の構成

《学部》

総合科学部、医学部、歯学部、薬学部、理工学部、生物資源産業学部

《大学院研究科・教育部、研究部》

創成科学研究科、医学研究科、口腔科学研究科、薬学研究科、医科学
養学研究科、保健科学研究科、総合科学教育部、先端技術科学教育
部、社会産業理工学研究部、医歯薬学研究部

《病院》

病院

《その他の教育研究組織等》

教養教育院、先端酵素学研究所※、ポストLED フォトニクス研究所、
附属図書館、人と地域共創センター、情報センター、放射線総合センタ
ー、高等教育研究センター、環境防災研究センター、研究支援・産官学
連携センター、AWA サポートセンター、教職教育センター、先端研究
推進センター、デザイン型 AI 教育研究センター、産業院、バイオノー
バージョン研究所、埋蔵文化財調査室、四国産学官連携イノベーション共
同推進機構、技術支援部、キャンパスライフ健康支援センター、障がい
者就労支援センター、インスティテューショナル・リサーチ室、テクノ
ン連携室、海外拠点、教育機構、研究機構、社会貢献機構、経営機構、
教育戦略室、研究戦略室、地域連携戦略室、国際連携戦略室、広報戦略
室、情報戦略室、経営戦略室、男女共同参画推進室

※は、共同利用・共同研究拠点に認定された施設を示す。

⑤学生数及び教職員数(令和4年5月1日現在)

学部学生数 5,907 名(うち留学生 30 名)

大学院学生数 1,488 名(うち留学生 121 名)

教員数 957 名

職員数 1,527 名

■ 大学の基本的な目標等

徳島大学では、「自主と自律の精神に基づき、真理の探究と知の創造に努
め、卓越した学術及び文化を継承し向上させ、世界に開かれた大学として、豊
かで健全な未来社会の実現に貢献する。」ことを理念としている。

第4期中期目標期間においては、社会の変化や SDGs の課題に対応し、持
続可能でインクルーシブな社会、多様性にあふれる社会の実現に向けて理系
に強みを有する本学の特徴を活かし、教育・研究を充実・強化するとともに、先
端医療の推進や産学官連携を通じて地域創生をリードする。

また、自立的な経営体としての大学を目指し、多様な財源の確保等により、
安定的な経営を実現する。

学章



(2001年制定)

コミュニケーションマーク



(2010年制定)

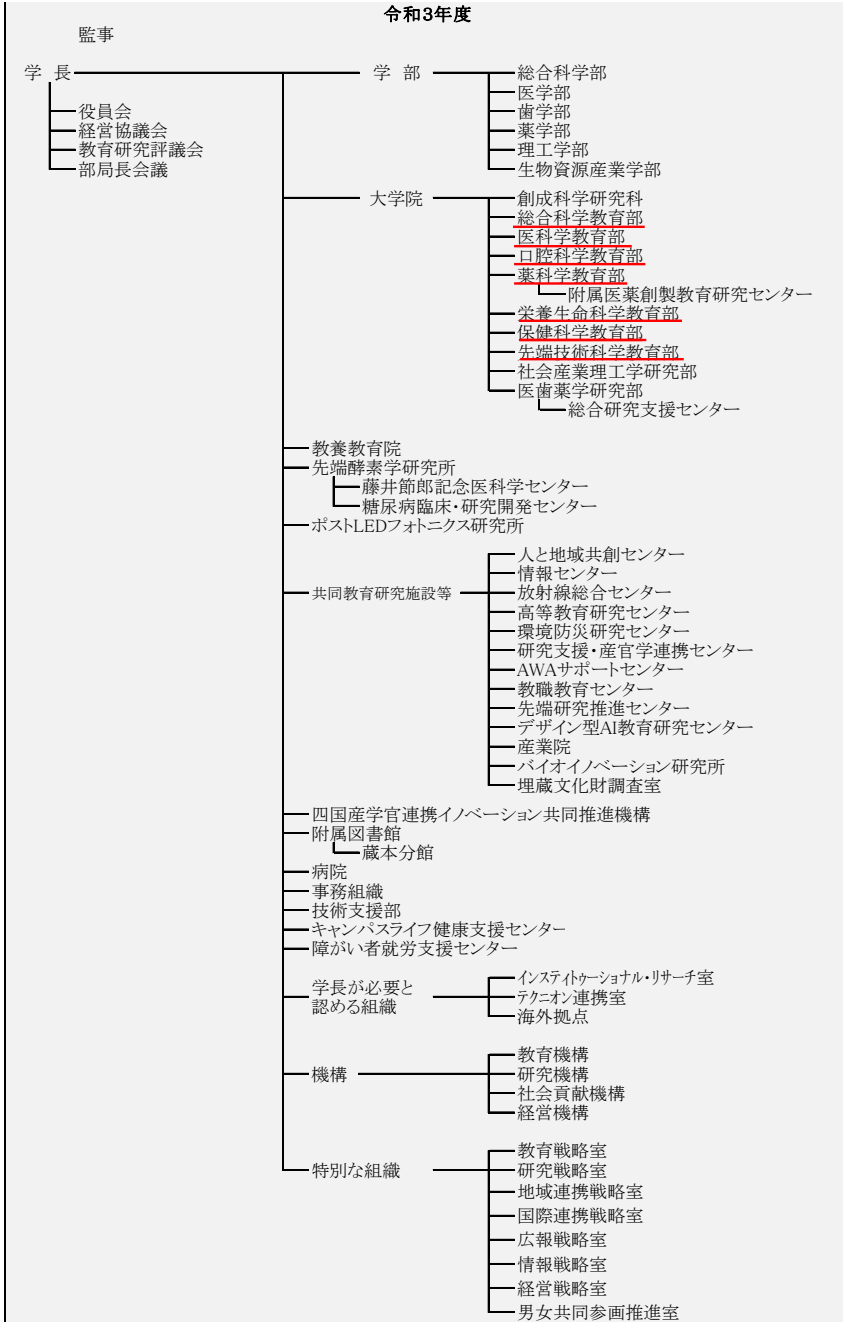
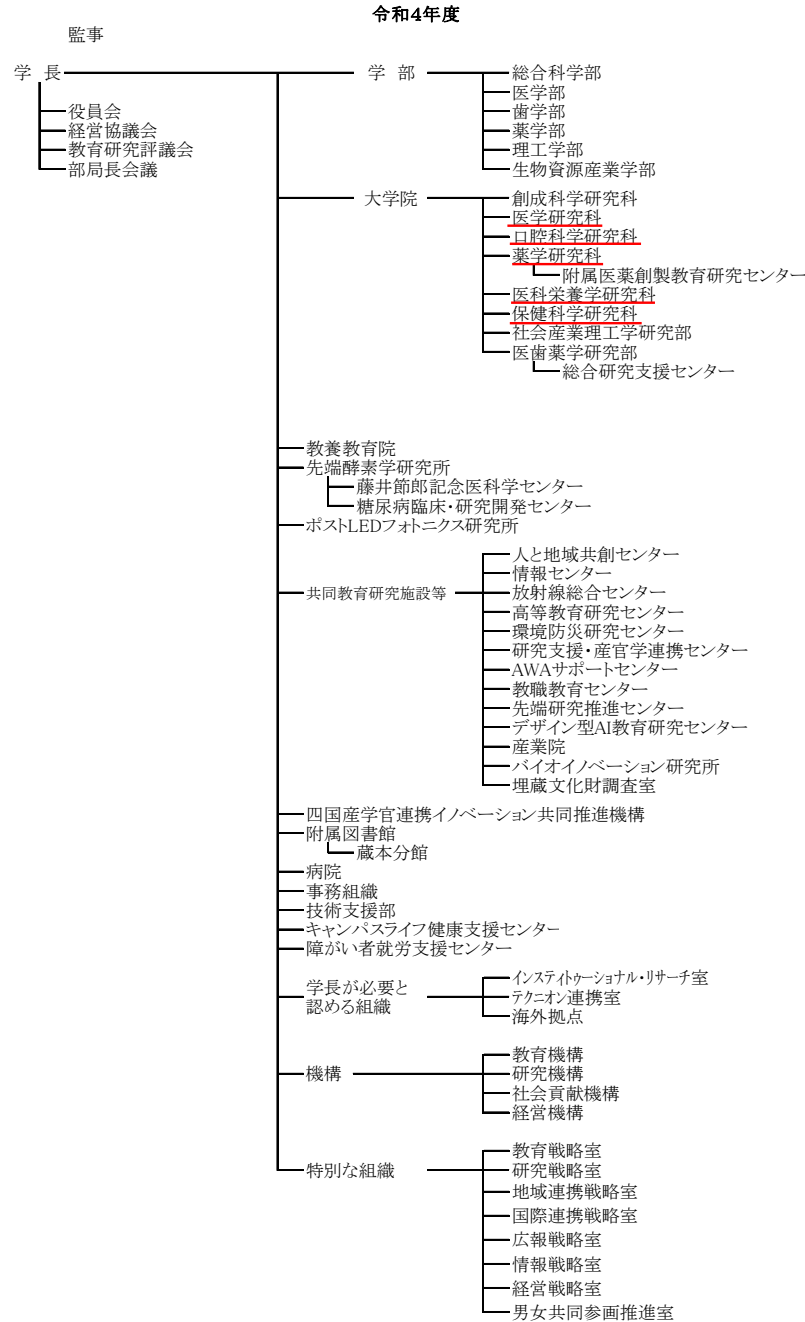
徳島大学マスコットキャラクター



とくぼん

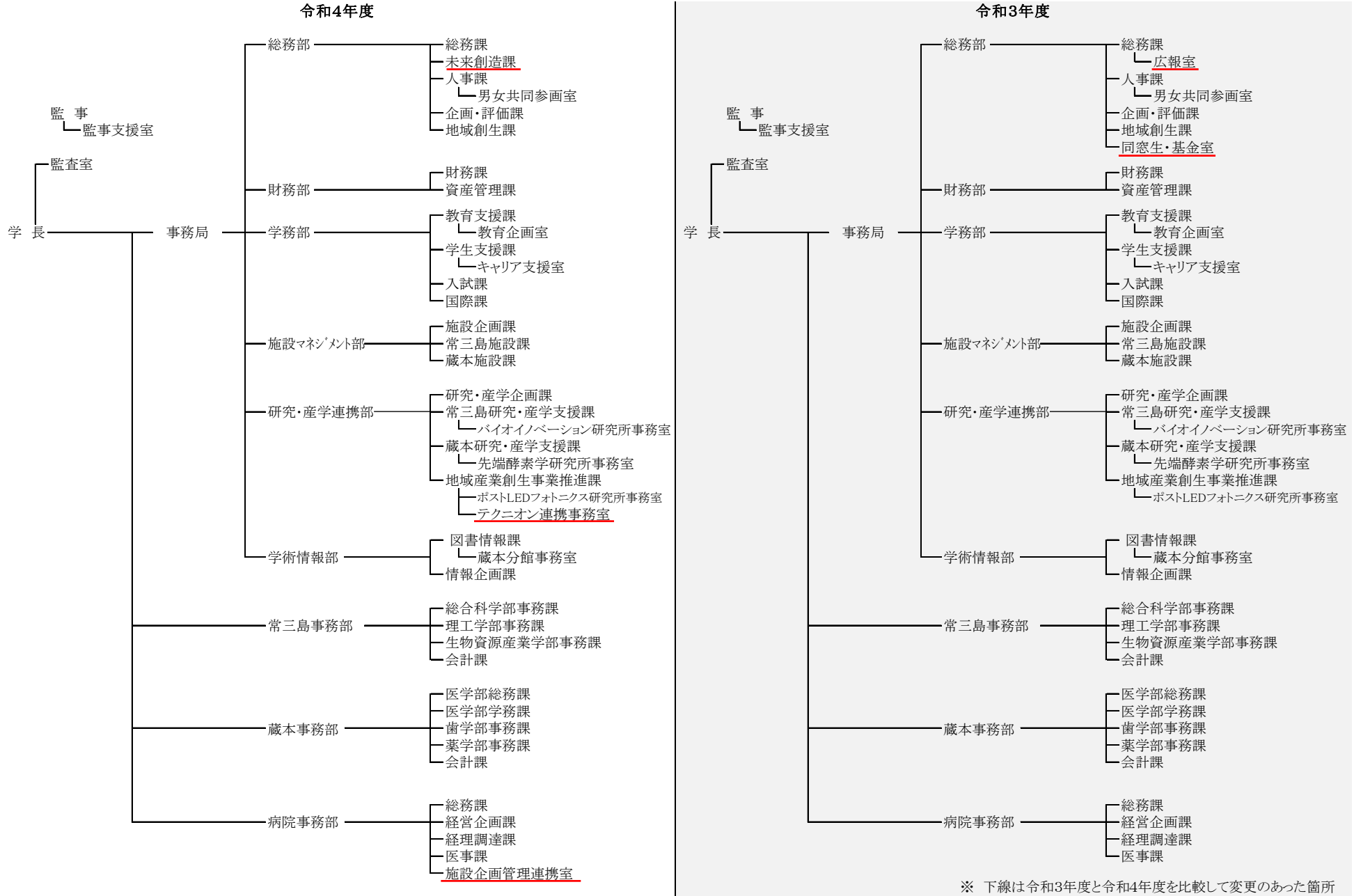
大学の機構図

教員組織図



※ 下線は令和3年度と令和4年度を比較して変更のあった箇所

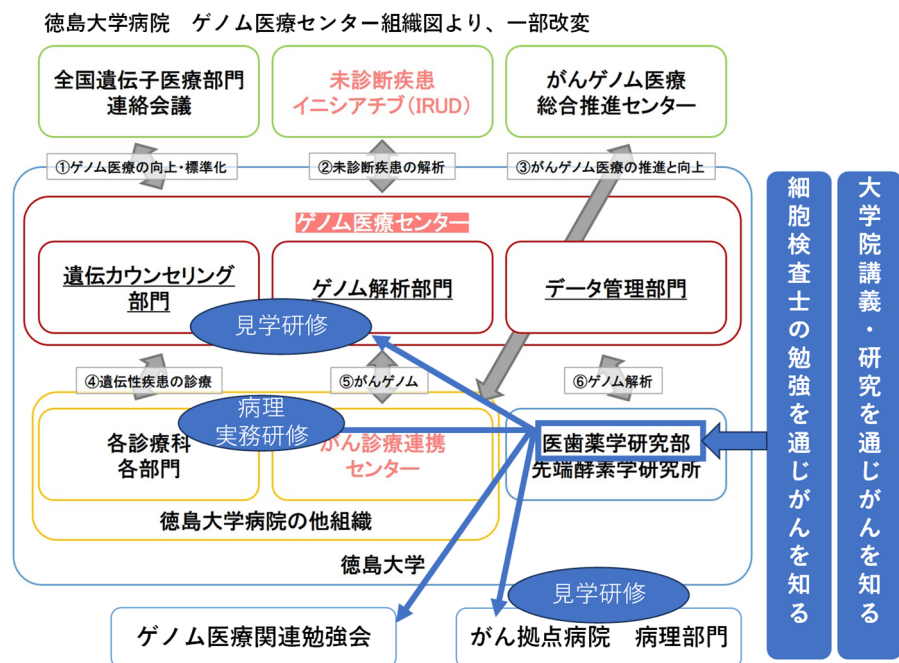
事務組織図



■ 特色ある教育プログラム等の展開

▽令和3年度～『がんゲノム医療で活躍できる臨床検査技師育成プログラム』

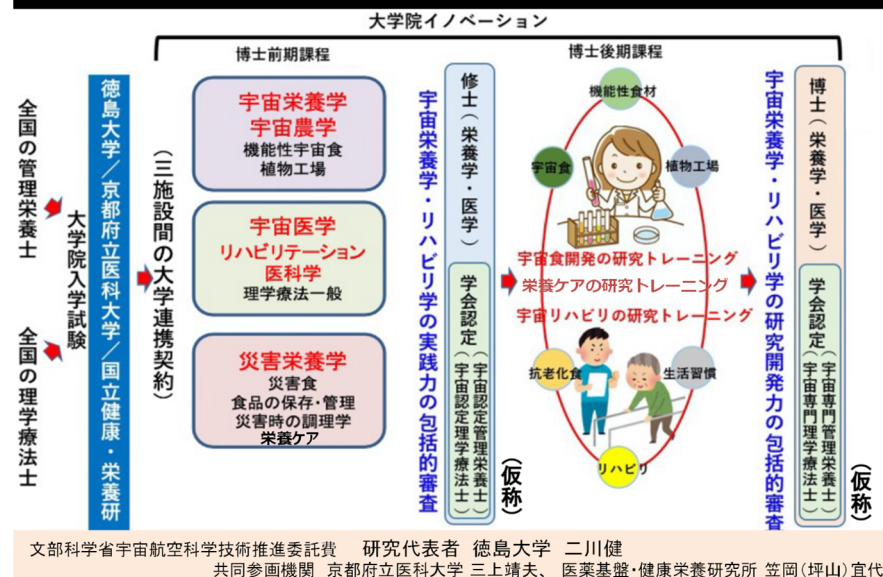
大学院保健科学研究科博士前期課程に新設した「**がんゲノム医療で活躍できる臨床検査技師育成プログラム**」では、大学院講義・研究と並行して、徳島大学病院病理部での1年の実務研修により細胞検査士試験の受験資格が得られ、ゲノム医療に関する見学実習(右下図)を通じて、がんに関する検査の説明や対応ができる臨床検査技師となれるよう経験を積むことができる。本プログラムの令和3年度入学生は、研究成果を発表した地方学会では優秀賞を受賞した。修了後には、がん拠点病院の病理部門に就職しており、がんゲノム医療で活躍する臨床検査技師の育成に繋がっている。



▽令和5年度開講『宇宙栄養学コース』

文部科学省の宇宙航空科学技術推進委託費(宇宙航空人材育成プログラム)に採択されたことを契機に、大学院医科栄養学研究科では、**長期宇宙滞在者を食と運動で支える“宇宙専門管理栄養士(仮称)/理学療法士(仮称)”の育成を目的とした「宇宙栄養学コース」**を令和5年度から開講する。

人材育成：大学院 宇宙栄養学コース開始
2023年4月スタート



▽令和5年度新設『医光/医工融合プログラム』

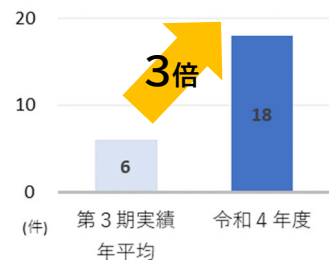
令和5年度からの「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」において、理工学部の入学定員増とする取組構想「次世代ひかりトクシマ若者雇用創出計画～『**医光/医工融合人材**』が切り拓く新たな地方創生～」が選定された。これを踏まえ、光学(工学)と医学を発展的に融合し、理工学部、医学部、ポストLEDフォトリソグラフィ研究所、先端酵素学研究所などによる**学部等横断型の特別教育プログラム「医光/医工融合プログラム」**を理工学部に新設し、第1期生34名(入学定員30名)を受け入れた。



■ イノベーション人材の育成【中期計画 5-2】

令和4年度から新たに、イノベーション創出プロセスを設計、実施できる人材を徳島で育成することを目的とした取組「徳島大学 i.school」を開始するなど、イノベーション人材の育成において、組織的な実施体制を構築しており、**学生のアイデアコンペやビジネスプランコンテスト等の入賞数は、第3期実績年平均の3倍である 18 件**となった。

アイデアコンペやビジネスプランコンテスト等の入賞者数



《学生による主な受賞》

- ・令和4年度総務省「異能vationプログラム」ジェネレーションアワード部門、飛躍的に便利になる分野賞
『「もう、泣き声に泣かされない」赤ちゃんの感情がひと目でわかる、泣き声理解促進アプリ「あわベビ」』
- ・キャンパスベンチャーグランプリ四国 2022、最優秀賞
『徳島のおいしいものを全国に！時代を変える新しい食品加工』

■ 外国人留学生の受入促進【中期計画 7-1】

異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成することを目標に、学生の海外派遣や外国人留学生の受入促進に取り組んでいる。特に、新型コロナウイルス感染症の影響による入国規制の緩和・撤廃等を踏まえ、母国待機となっている学生の受入やサマープログラム・スプリングプログラムの再開等に取り組み、令和4年度の**外国人留学生受入人数は 291 人と、第3期最高値(年間 304 人)とほぼ同等の水準**となった。今後、日本語教育プログラムの充実等、さらに留学生支援を促進し、一層の外国人留学生受入拡大を目指す。



■ 道の駅いたのにおけるアイデア料理を通じた SDGs 教育プロジェクト

生物資源産業学部では、インターンシップ科目において徳島県の特産品や廃棄食材を活用した SDGs アイデア料理コンテストを開催し、選出されたオリジナルメニューを「道の駅いたの」のキッチンカーで販売する「道の駅いたのにおけるアイデア料理を通じた SDGs 教育プロジェクト」を実施した。この取り組みは、徳島の海と陸の豊かさを守り、生産者と料理人を結び付けることで地方創生を目指す実践的な SDGs 活動であると評価され、学生の社会的・職業的自立に貢献したインターンシッププログラムを表彰する日本最大級のアワードである「**第5回学生が選ぶインターンシップアワード 2022**」に入賞した。

教育データ



●就職率	学部	大学院(修士・博士前期)	大学院(博士・博士後期)	
	98.6%	99.3%	90.0%	
●国家資格合格率(新卒)	医師国家試験	歯科医師国家試験	看護師国家試験	薬剤師国家試験
	100%	71.4%	100%	97.4%
●収容定員充足率(令和4年5月1日現在)	学士課程	修士課程・博士前期課程	博士課程・博士後期課程	
	104.1%	103.9%	97.8%	
※全課程において、収容定員充足率は概ね適正である。				
●収容定員超過率(令和4年5月1日現在)	総合科学部	創成科学研究科	93.2%	
	103.2%	医学研究科	58.5%	
	100.3%	口腔科学研究科	69.3%	
	93.3%	薬学研究科	80.2%	
	102.5%	医科栄養学研究科	107.0%	
	97.6%	保健科学研究科	91.3%	
	99.8%			
※全学部・研究科において、収容定員超過率は 110%未滿となっている。				

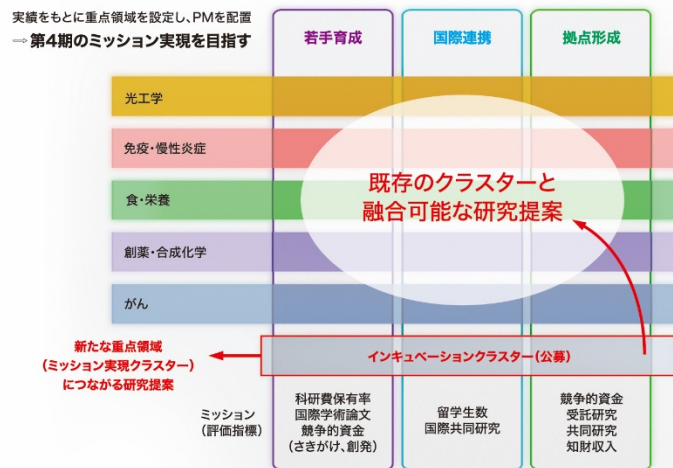
■ 挑戦的研究における未踏の頂を目指す研究クラスター制度の推進【中期計画 8-1】

分野を超えた複数の研究者からなる研究集団(研究クラスター)に対する研究費の重点配分や共用機器の整備を行うことにより、新たなイノベーションを創出する「研究クラスター制度」は、令和4年度、本学のミッション実現と萌芽的研究のインキュベーションを目指し、新たな枠組みの制度へ刷新した。

ミッション実現クラスター: 本学のミッションの実現へと連動させるため、研究戦略目標として「大学間連携」「産官学連携」「国際連携」「若手育成」「研究拠点形成」を掲げ、各項目を達成するための優れた実績のある「光工学」「免疫・慢性炎症」「食・栄養」「創薬・合成化学」「がん」の5分野を重点研究領域に設定し、各領域における、優れた実績を有する研究者をPM(プログラムマネージャー)に任命するとともに、「**ミッション実現クラスター**」を設置した。

インキュベーションクラスター: 社会実装や基礎研究の更なる推進を目指す研究課題または新たな重点研究領域の創成につながる、萌芽的・独創的な研究課題を支援するための「**インキュベーションクラスター**」では、ミッション実現クラスターと連携するとともに、他研究機関、企業等からの参画の奨励や若手(博士後期課程学生含む)・女性研究者の積極的な参画を促進することで、新たな強みとなる研究課題を発掘し、発展的・持続的な展開と将来の大型外部資金獲得を目指し、令和4年度は7件を選定した。

これまでの実績をベースに、研究力を持つ地域の中核大学として生き残るため、研究クラスター制度を刷新

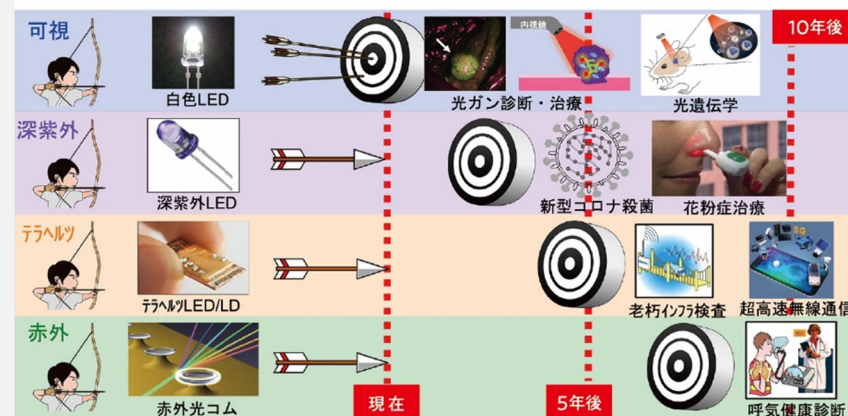


《研究紹介》

シームレスな光イノベーションを創出する次世代光技術

次世代フォトニクス研究の分野と組織のボーダレス化により異分野融合と新奇分野創出を進め、次世代光の多様性と独自特徴を活かした光技術を創出することを目指す。具体的には、次世代移動通信とバイオセンサーに関連した研究開発を中心として、フォトニクス・アドバンテージを最大限に活かし、多種多様な光イノベーション創出に繋がる技術開発を通して、アフターコロナ社会やSDGsに貢献していく。

シームレスな光イノベーションの創出

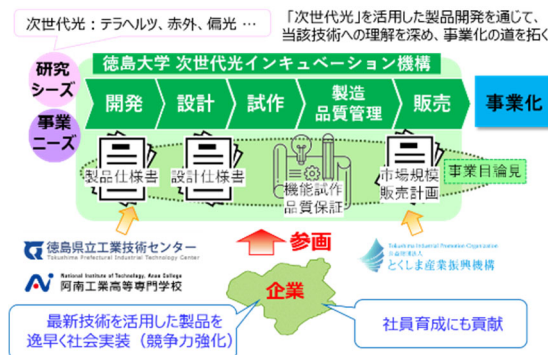


次世代 DDS 拠点形成: 従来 DDS の常識を超えた薬物送達技術の開発と難治性疾患治療への展開

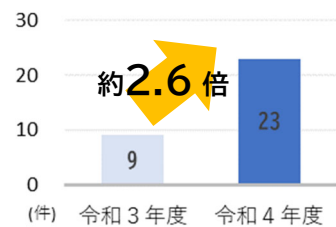
医歯薬学研究部薬学域には、日本を代表する薬物送達システム(Drug Delivery System: DDS)の優秀な研究者が多数在籍し、全国でも稀有な存在となっている。この利点を活かし、脳など未踏臓器への選択的薬物デリバリーやゲノム編集技術による遺伝子治療を達成できる従来 DDS の常識を越えた薬物送達技術の開発を目指す。さらに、国際的に活躍できる若手・女性研究者キャリアパス支援と、博士課程・博士後期課程の大学院生を中心とした若手研究者の育成を目指した次世代 DDS 拠点の形成にも取り組んでいる。

■ 徳島県「次世代“光”創出・応用による産業振興・若者雇用創出計画<展開枠>」の採択
平成30年度地方大学・地域産業創生交付金事業の採択自治体を対象とした、国費支援終了後の特例的追加投資「展開枠」に、本学が参画する、徳島県の「次世代“光”創出・応用による産業振興・若者効用創出計画<展開枠>」が採択された。

展開枠では、次世代移動通信に向けた「オール光型テラヘルツ通信」と、従来より100倍以上迅速かつ高感度に検出可能な「メタマテリアルを用いた高感度赤外センサー」を研究重点2分野と位置づけ、世界レベルの成果創出と社会実装を目指す。これに並行して、次世代光関連技術による新たな事業創出を実現するため、製品仕様・差異化技術・品質保証等を検証するためのプロトタイプ作成を通じて、事業化判断に繋がる事業目論見を検討するとともに、それを通じた新規技術習得に向けた人材育成を行う組織「次世代光インキュベーション機構」を学内に創設し、研究から事業化へのスムーズな展開を図る。



■ 次世代の光と期待される「テラヘルツ」波長領域における次世代光源開発【中期計画 1-5,9-2】
各国で技術開発が進む第6世代(6G)移動通信システムでの利用が期待されるテラヘルツ波の研究において、ポストLED フォトニクス研究所の主導により、電気的手法より1,000倍以上の低位相ノイズな光学的テラヘルツ波発生とテラヘルツ通信実験の成功など、光関連分野の応用研究を推進している。光工学、医光融合研究等、光に関連する研究分野の共同研究・受託研究数は、前年度実績の約2.6倍の23件となり、第4期中期目標期間の目標値(31件)の達成状況は約74%である。



光に関連する研究分野の共同研究・受託研究数

■ 国際的な共同利用・共同研究の推進【中期計画 11-1】

本学の独創的な新興・融合分野の研究推進の核となる、先端酵素学研究所では、学内連携にとどまらず国内外の大学や研究機関、産業界等との組織的な連携や個々の大学の枠を超えた共同利用・共同研究等を推進している。

骨芽細胞/骨細胞由来 IL-11 は骨形成と全身の脂肪形成を制御することによる骨粗鬆症と代謝症候群の関係性との解明に繋がる研究や自然免疫分子 STING の活性化を制御する輸送メカニズムの解明による感染症や炎症性疾患の予防・治療法開発に繋がる研究など、国際的に優れた研究成果を挙げており、共同利用・共同研究数は、第3期実績年平均(37.5件)を大幅に上回る60件となった。



研究データ

大学発ベンチャー企業数

32社

令和5年3月末時点

大学発ベンチャー企業雇用創出数

129人

令和4年度設立大学発ベンチャー企業

- ・モルミル株式会社
- ・株式会社 Egret・Lab
- ・株式会社クロスメディソン
- ・株式会社サウスウッド

共同研究数

304件

(296件)

受託研究数

193件

(193件)

常勤研究者における
科研費代表者の割合

48%

(48%)

国際学術論文数

Nature index

30報

(37報)

Cite Score 上位1%

14報

(14報)



※()内は第3期実績年平均

■ 大学による地方創生人材教育プログラム構築事業(COC+R)の推進【中期計画 1-2】

大学による地方創生人材教育プログラム構築事業(COC+R)として、地域を担う質の高い人材を大学が地元企業等と協働して育成し、県内企業等の魅力・経営の向上と県内への人材定着の促進という好循環の創出を目指した「**とくしま創生人材・企業共創プログラム**」を推進している。

本事業では、参加校共同授業やエクスターンシップの実施、実践型インターンシップの拡充、また、産学協議会基準に準拠した就業体験型インターンシップの新設などにより、令和4年度は、目標を上回る学生の事業参加実績となった。

また、独自の「地域クリエイターズ・マイレージ・ポイント」の運用、地域創生コーディネーターによる丁寧な指導・支援、FD 地域人材育成フェスタの開催や「実践型インターンシップコーディネーターの手引き」の作成など教育の質の担保に向けた取組を進めた。これらの取組は、大学による地方創生人材育成教育プログラム構築事業(COC+R)の中間評価でも「優れている点」として評価されている。



■ スタートアップスタジオ「U-tera」の支援等による起業の推進【中期計画 1-4】

スタートアップスタジオ「U-tera」では、起業を目指す学生等に対して、学内の人的・物的資源を基盤とした伴走支援を行っている。

令和4年度は、徳島イノベーションベース(TIB)と連携の下、産業院にて実施しているアントレプレナーシップ教育プログラム(次世代産業人材創出プログラム)を受講し、U-teraで起業支援を行った学生により、徳島大学発学生ベンチャー「株式会社クロスメディソン」(令和5年3月22日認定)が設立され、「泣き声理解促進アプリあわべび」の開発等に取り組んでいる。

■ 建築サークル学生による社会貢献活動

理工学部理工学科社会基盤デザインコースの学生で構成された建築サークル AUT は、牟岐町内において、ものづくり体験教室や県産材を使った木製玩具の保育園への寄贈等の活動を行っている。これらの活動は、地元新聞に取り上げられるなど、学生の社会貢献活動として注目されている。



■ バイオイノベーション研究所を拠点とした産官学による社会連携の推進

徳島県水産業の成長産業化及び関連産業の振興を目的とした、マリンサイエンスゾーン協定のもと、バイオイノベーション研究所では、海藻の陸上養殖技術の開発や環境変動に対応した養殖海藻の品種開発等を、協定機関と連携し進め、**世界初の陸上での海藻二毛作事業を確立した。**

また、陸上養殖された海藻は県内の新たな産品として商品化され、海陽町において、ふるさと納税の返礼品にも選定されている。



■ 看護リカレント教育の推進【中期計画 1-3】

看護職にリカレント教育の機会を提供し、地域医療の高度化と看護の質向上を図るとともに、看護学における研究成果を地域社会に還元することを目的とする看護リカレント教育センターでは、認定看護師教育課程(在宅ケア分野)において、**特定認定看護師の養成を推進し、徳島県内の在宅ケアを専門とする特定認定看護師は、全国最多となっている。**



また、令和5年度からは新たに感染管理分野の認定看護師教育課程を開講し、更なる看護リカレント教育の推進を図る。



第4期中期目標期間において、社会の変化や SDGs の課題に対し、持続可能でインクルーシブな社会、多様性にあふれる社会の実現に向けて、理系に強みを有する本学の特徴を活かし、教育・研究を充実・強化するとともに、先端医療の推進や産学官連携を通じて地域創生をリードすることを、基本的な目標に掲げ、SDGs の課題達成のための取組をより一層推進していく。

●SDGs 推進組織体制の整備

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)に関係する活動の全学的な推進及び本学の教育・研究成果により社会の課題解決を図ることを目的に、「SDGs 推進委員会」を設置するとともに、研究、産学官連携における SDGs の推進を図るため、研究支援・産学連携センターに新たに「SDGs 推進部門」を加えるなど、SDGs の課題達成の取り組みを推進するための体制を整備している。



●基本理念の制定と新たな支援事業の開始

令和4年6月に本学のSDGs基本理念を制定し、理念の普及、理解の促進を図るとともに、SDGsの達成への展開が期待できる研究課題に対し、研究活動費の助成を行う「SDGs推進研究支援事業」を新たに開始している。

SDGs 基本理念

国立大学法人徳島大学は、SDGs 達成のため、自主と自立の精神に基づき、社会の変化や諸課題に対応し、持続可能でインクルーシブな社会、多様性にあふれる社会の実現に向け、真理の探究と知の創造に努め、卓越した学術及び文化を継承し向上させ、世界に開かれた大学として、豊かで健全な未来社会の実現に貢献していきます。

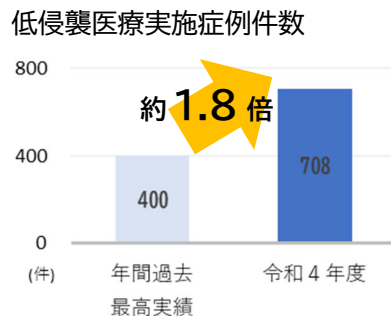
●イシマササユリの保護活動【SDG13,15】

徳島県、阿南光高等学校、阿南市、阿南工業高等専門学校、伊島島民の方々と連携し、徳島県により絶滅危惧Ⅰ類に指定されている「イシマササユリ」の保護活動に取り組んでいる。生物資源産業学部教員及び学生らが中心となり、イシマササユリ自生地の草刈りや土の耕起を行い、組織培養により増殖した球根約 200 球を移植した。



■ 質の高い高度な低侵襲医療の積極的な推進【中期計画 12-1】

ロボット支援手術、TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)に加え、新たに脳梗塞と出血合併症のリスク、手術時間や退院までの日数の軽減が可能となる「**完全内視鏡下心房細動手術(ウルフ-オオツカ手術)**」を四国で初めて導入するなど、低侵襲医療を積極的に推進した。高度専門技能者の育成やチーム医療の推進との相乗効果もあり、**低侵襲医療の実施症例件数は、過去最高実績である400件を大幅に上回る708件**となった。



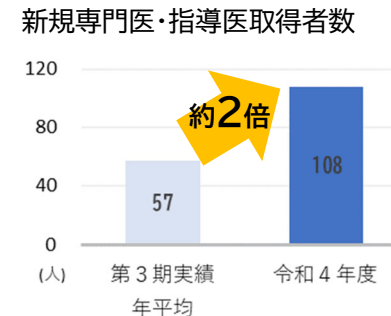
■ AR(Augmented Reality)顕微鏡脊椎手術の導入【中期計画 12-1】

令和4年度から、拡張現実(Augmented Reality)ナビゲーションシステムを用いた**AR顕微鏡脊椎手術を導入**し、29件の手術を実施した。導入により、術前に撮影した画像から作成したデジタルイメージを顕微鏡術野に投影することで、術中の解剖学的位置関係を理解しやすくなり、術前計画と実際の手術の間のわずかな差を埋め、術中の重篤な合併症を防ぎ、最小限の骨切除により低侵襲な手術が行えることが期待される。



■ 高度医療人の育成【中期計画 12-2】

県内唯一の特定機能病院として、高度先端医療を支える専門知識・技能を持つ資格等を有する人材育成を各診療科・診療部等で積極的に進めており、十分な症例経験の機会を提供した結果、令和4年度**新規専門医・指導医の取得者数は第3期実績年平均(57名)を大きく上回る108名**となった。



■ 脳卒中・心臓病等総合支援センターの設置【中期計画 12-3】

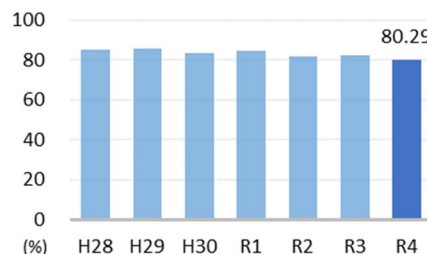
脳卒中、心臓病等の循環器病に対する徳島県全体の患者支援体制の構築を目的として令和4年8月に**脳卒中・心臓病等総合支援センターを設置**した。

本センターでは、地域医療機関の診療及び患者機能の向上と、ワンストップで必要な情報を得られるよう、徳島県における脳卒中・心臓病等の循環器疾患に対する診療連携体制の構築、地域の患者・家族の相談支援及び地域の医療機関との連携、循環器病に関する情報提供等を行っている。

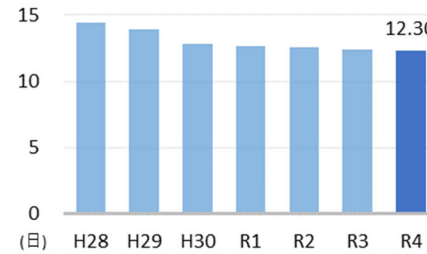


徳島大学病院データ

病床稼働率



平均在院日数



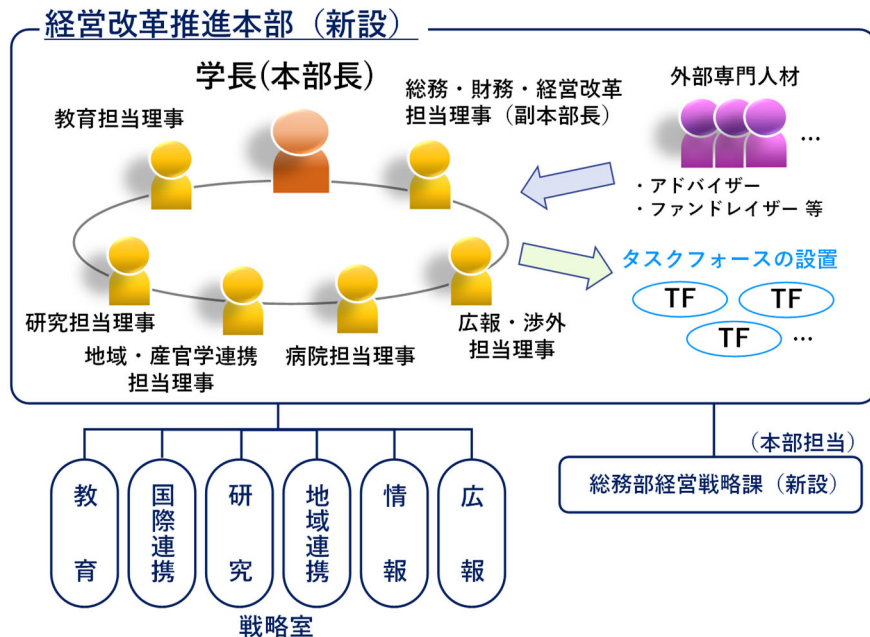
※低侵襲で効果的な医療を提供した場合、一般的には短くなる傾向がある。
新型コロナウイルス感染症の影響や診療に対応しながら、病床稼働率を維持し、平均在院日数は短縮できている。

■ 経営改革推進本部の新設【中期計画 15-1】

学長主導の経営体制の強化を図るため、既存の経営戦略室を発展的に解消し、学長を本部長、総務・財務・経営改革担当理事を副本部長とし、各戦略室を統括する「**経営改革推進本部**」を令和5年4月から新設する。併せて、経営改革の旗振り役となり、経営改革推進本部を支える事務組織として新たに「経営戦略課」を設置する。

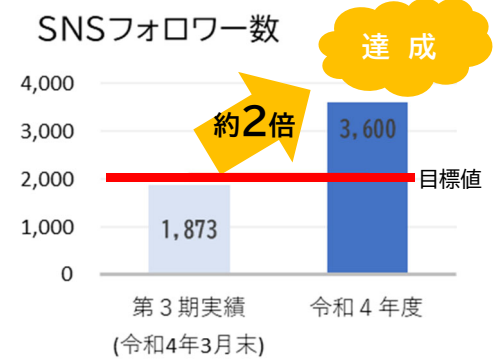
経営改革推進本部では、真の経営改革を実現するため、学長のビジョンに基づいた実効性が高く、意欲的な経営戦略の立案と着実な実行、さらには、当該経営戦略の進捗確認、情報共有、成果の普及等を進める。

また、今後、事業内容に応じたタスクフォースを設置し、若手教職員を積極的に抜擢するなど、柔軟で新鮮な発想を取り込むとともに、将来の経営人材の育成へと繋げる。



■ 学生広報スタッフの制度化による情報発信の強化【中期計画 16-2】

大学広報に学生の声を反映させ、学生活動や本学の取組に対する地域社会の理解増進を図ること等を目的に**学生広報スタッフを新たに制度化**するなど、**SNS での学生目線の情報発信を強化**し、SNS フォロワー数は、前年度比約2倍の3,600件となり、**第4期中期計画の目標である 2,060件を大きく上回った。**



■ デジタル技術の活用による業務効率化の推進【中期計画 17-1】

教職員の IT 知識の底上げ及びデジタル技術を活用した業務効率化を目的とした各種セミナーを開催するとともに、学内の各種申請手続き等において、RPA の活用を促進するなど、令和4年度は、**16 件の業務を電子化・自動化**した。特に、WEB 入学手続きシステムの導入では、入学時提出書類が電子化され、教務システムとのデータ連携が可能となり、学務系事務の繁忙期である年度末、年度初の業務時間が大幅に削減された。

また、窓口業務におけるサービス向上や効率化を図るために、24 時間 365 日対応可能なチャットボット機能を用いたオンライン窓口を情報センターに導入した。今後、利用者アンケート等により課題等を検証し、順次、学内展開を目指す。



財務レポート

徳島大学は本学を支えてくださる国民の皆様方に透明性のある財務情報を提供し、大学の財政状態及び運営状況について明らかにするとともに、ご理解をいただくことが重要な責務の一つと考えております。

この財務レポートは、徳島大学の現在の財務状況をできるだけ分かりやすくお伝えするため、令和4事業年度財務諸表をもとに作成いたしました。

令和4事業年度の財務状況については、国立大学法人会計基準の改訂による特別な会計処理が行われ、臨時利益が90億円計上されました。この影響で、財務諸表で表示する財務状況が例年とは異なっておりますが、改訂前の基準で試算いたしますと、経常費用(一年間大学を運営するための費用)については、令和3事業年度と比較して、0.6億円増加し、経常収益(大学の運営に伴う収益)については、附属病院収益の増加などにより、令和3事業年度と比較して、9.9億円増加しております。

令和4事業年度にあつては、国際情勢の悪化、燃料費・物価の高騰等により大学を取りまく環境は依然として厳しいものでしたが、自己収入の確保、予算の効率的執行に努めるとともに、国や地方自治体等の各種補助金を活用することができたため、財務状況に大きな支障が生じることなく運営することができました。

また、大学運営に係る財政基盤の大部分を占める国からの運営費交付金は、法人化翌年の平成17年度から毎年約1億円ずつ減額されております。この状況に対応するため、大学改革等における予算の獲得及び自己収入の増加に取り組むとともに、令和4事業年度に新たに制度化された、減価償却引当特定資産制度を積極的に活用し、将来の設備更新を計画的に実行する資金を確保するなど経営の安定化に向けた各種方策に取り組んでおります。

今後も安定した経営を行っていくためには、更なる経費の節減を図るとともに、積極的な外部資金の獲得に努めていくことが重要であると考えております。

徳島大学は、教育・研究・社会貢献及び診療の各分野にわたり、その充実と不断の見直し・改善を進めて参りますので、今後ともご支援、ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

損益計算書の概要

損益計算書は、事業年度内に徳島大学が実施した事業等により発生した全ての費用と収益を記載することによりその運営状況を明らかにしています。

経常費用	3年度	4年度	増減
業務費	485.8	485.6	△0.2
教育経費	20.7	18.4	△2.3
研究経費	28.6	29.1	0.6
診療経費	186.5	189.0	2.4
教育研究支援経費	2.5	3.0	0.5
受託研究等経費	24.3	22.5	△1.7
人件費	223.3	223.6	0.3
一般管理費	11.7	12.8	1.0
財務費用	0.9	0.7	△0.1
経常費用合計	498.5	499.1	0.6

臨時損失	3年度	4年度	増減
固定資産除却損	0.1	0.1	0.0
その他	0.0	0.3	0.3
臨時損失合計	0.1	0.4	0.3

当期総利益	3年度	4年度	増減
当期総利益	17.2	109.6	92.4

経常収益	3年度	4年度	増減
運営費交付金収益	120.2	118.6	△1.6
学生納付金収益	40.6	44.3	3.7
附属病院収益	270.3	279.0	8.8
受託研究等収益	24.6	22.6	△1.9
施設費収益	3.0	0.7	△2.4
補助金等収益	22.2	28.7	6.5
寄附金収益	12.7	16.3	3.6
資産見返負債戻入	11.6	0.0	△11.6
雑益	6.6	6.4	△0.3
経常収益合計	511.9	516.7	4.8

臨時利益	3年度	4年度	増減
その他臨時利益	1.6	90.4	88.8

目的積立金取崩額	3年度	4年度	増減
積立金取崩額	2.3	2.1	△0.2

貸借対照表の概要

貸借対照表は、決算日(令和5年3月31日)における徳島大学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

資産の部	3年度	4年度	増減
土地	446.1	446.1	0.0
建物	235.6	227.6	△8.0
建物附属設備	76.6	67.1	△9.5
構築物	19.2	17.7	△1.5
工具器具及び備品等	78.5	73.0	△5.5
図書	27.0	26.6	△0.4
投資有価証券	39.6	43.3	3.7
有価証券	20.0	27.0	7.0
現金及び預金	121.0	91.9	△29.1
未収附属病院収入	50.6	56.9	6.3
引当特定資産	0.0	15.7	15.7
その他	18.9	37.0	18.1
資産の部合計	1133.1	1129.9	△3.1

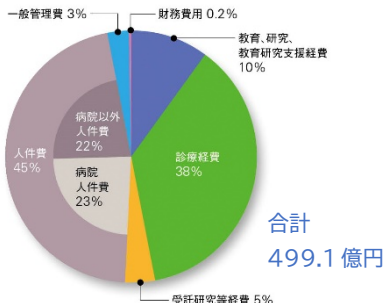
負債の部	3年度	4年度	増減
資産見返負債	100.1	13.6	△86.6
借入金	164.2	152.6	△11.6
未払金	89.4	65.9	△23.5
運営費交付金債務	0.0	1.7	1.7
寄附金債務	76.7	79.4	2.7
その他	26.9	42.3	15.4
負債の部合計	457.4	355.4	△102.0

純資産の部	3年度	4年度	増減
資本金	467.3	467.3	0.0
資本剰余金	80.5	72.2	△8.3
利益剰余金	128.0	235.2	107.3
純資産の部合計	675.7	774.5	98.8

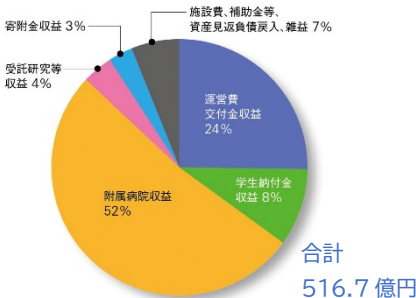
負債及び純資産合計	3年度	4年度	増減
負債及び純資産合計	1133.1	1129.9	△3.1

注)単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計及び増減は一致しません。

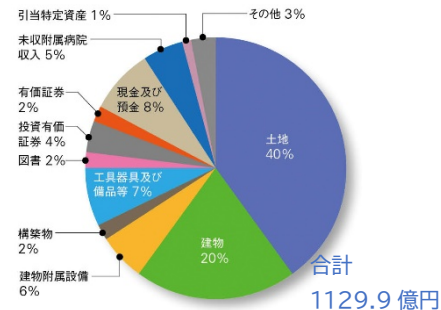
経常費用構成(令和4事業年度)



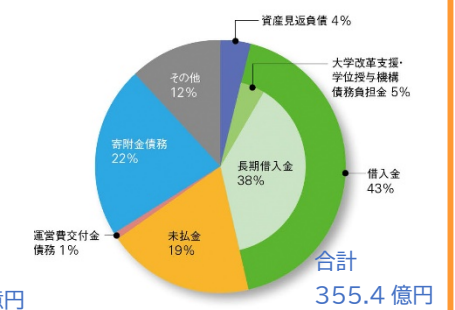
経常収益構成(令和4事業年度)



資産構成(令和4事業年度)



負債構成(令和4事業年度)



【費用と収益の概要】令和4事業年度は、国立大学法人会計基準の改訂に伴う令和4事業年度特有の会計処理により、臨時利益を約90億円計上しました。この影響で当期総利益が例年と比較し大幅に増加していますが、このうち現金の裏付けのある利益は2.5億円にとどまり、残りは現金を伴わない会計上の利益となります。

【資産、負債及び純資産の概要】令和4事業年度は、第4期中期目標期間初年度であり、建物・設備などの資産の取得が比較的少なく、減価償却費が資産の取得額を上回ったことから、全体として資産が減少しています。また、国立大学法人会計基準改訂により、負債が大きく減少し、純資産が大きく増加しています。

関連リンク

本学の情報をより詳しく知るための関連リンクをご案内します。

●徳島大学公式ホームページ	https://www.tokushima-u.ac.jp/
INDIGO 宣言	https://www.tokushima-u.ac.jp/about/president/indigo.html
徳島大学 VISION	https://www.tokushima-u.ac.jp/about/president/tokushimauniversity_vision.html
中期目標・中期計画	https://www.tokushima-u.ac.jp/about/concept/medium_plan/
第4期中期目標期間における自己点検・評価制度	https://www.tokushima-u.ac.jp/about/concept/self_inspection/
財務情報	https://www.tokushima-u.ac.jp/about/financial/financial/
徳島大学基金	https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/support/
大学の SDGs について	https://www.tokushima-u.ac.jp/research/sdgs/
徳島大学病院	https://www.tokushima-hosp.jp/
●徳島大学公式 SNS	
徳島大学公式 X(旧 Twitter)	https://twitter.com/Tokushima_Univ
徳島大学公式 Facebook	https://www.facebook.com/tokushima.univ
徳島大学公式 Instagram	https://www.instagram.com/tokushima_univ/
徳島大学公式 YouTube	https://www.youtube.com/channel/UCNQE9dKoLma9eGrzFo2WvqQ